2013年（平成25年）
第63号
（3月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

感謝の心でプラスに受け取る　「涅槃会」式典にて

２月15日、京都教会において涅槃会（ねはんえ）式典が行われました。釈尊の生涯を振り返り、教えをいただいたことに感謝するとともに、入滅時に説かれた「自灯明・法灯明」の教えに基づいて修行精進することを誓う日にしています。

式典では、映像を通して庭野開祖の法話を学びました。「涅槃には『死ぬ』という意味と『悟りに至る』という意味がある。肉体が滅することは悲しいことだが、有形の仏さまから無形の仏さまになられたことで、仏さまはいつでもどこにでもおられる、一人ひとりの心の中におられるようになった。だから悲しい日でもあるが、めでたい、有り難い日でもあります」と述べました。

結びとして、佐藤教会長のおことばがありました。「悟りには人格完成へ向けた努力＝菩薩行が必要。開祖は仏になれる道筋として、大勢の人が仏の教えによって救われることと示された。仏教は『この世は縁になって成り立つ』と教えている。感謝の心をもって、何事もプラスに受け取れる感性・品性を身につけよう」と述べました。

寒さを吹き飛ばす元気をもらいました　～全国車いす駅伝大会ボランティア～

雪の中、車整理のボランティア

選手の車いすの運搬

２月17日、第24回全国車いす駅伝が行われました。雪がちらつく寒さの中、宝ヶ池・国立国際会館前をスタートし、西京極陸上競技場まで５区間21．３㎞を走りました。

この駅伝にユース21のメンバーとして競技運営のボランティアとして京都教会から20名以上の青年が参加しました。前日の16日から２日間陰役に努めました。

16日は開会式に参加する選手団を迎え、駐車場の案内のボランティアを、17日の大会当日は西京極運動公園で選手達の常用車いすの管理、運搬をしました。

ボランティア参加者は、選手の大切なレーサー用の車いすを運ぶ際、緊張しながらも丁寧に取り扱っていました。レースに取り組む選手たちに、ボランティアとして陰で支えながら、青年たちは力強さと元気を得ることができました。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

【全国車いす駅伝について】

この大会は、昭和63年に開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会「愛とふれあいの京都大会」で公開競技として実施され、その翌年度（平成２年）から名称を「全国車いす駅伝競走大会」として継続開催。障害者の社会参加の高揚と障害者スポーツの振興を図り、社会の障害者に対する理解と認識を深めることを目的としています。

時々刻々

先日近所に消防車が出動してきました。幸い料理していて火災報知機が反応して緊急通報が入ったためで、被害もなく無事に終えました▼京都市における昨年の火災発生件数は二七〇件と、過去三年増え続けています。しかも死者が一五人、被害額は三十四億円だったそうです▼昔から「地震・雷・火事・おやじ」は世の中の恐いものの代表として言われてきました。最近はあまり怖がる人も減ってきているようです。特に『おやじ』はそれほどではないですね▼死亡原因の大半はがんや心疾患などの病気によるもので、災害による死亡率は低いものです。しかし、大災害が起こった時の被害の規模の大きさは計り知れないものがあります▼今月十一日、東日本大震災から２年がたちます。未だに元の生活に戻れない方々が多数おられます。犠牲者の慰霊と復興に向けた祈りを捧げましょう。

今月のことば　～観音さまとともに努める～　京都教会長　佐藤益弘

東日本大震災の発生から、今月１１日で満２年が経ちます。亡くなられた数多くの方々への慰霊・鎮魂と、一日も早い被災地の復興を心から願うものであります。

さて、機関誌『佼成』３月号の「心に寄り添い、ともに歩む」という会長法話の中でも、東日本大震災のことにふれられています。「一昨年の東日本大震災のようなことが発生したとき、私たちはなすすべもなく立ち竦んでしまいます。実際に自分自身が味わったことのない困難をどう受けとめればいいのか、苦しむ人の心に寄り添い、ともに歩むとはどういうことかを考えさせられました。あの日以来、多くの人が**『自分に何ができるのか』**と、慈悲の実践ということについて思いをめぐらしてきたのではないでしょうか」と書かれています。そのあとに、「苦しんでいる人たちのことを忘れることなく思いやり、苦悩が少しでも和らぐようにと心から願うことが、それらの人に寄り添うこと、慈悲の実践をすることといえそうです」と教えて頂きました。あらためて、未曽有の災禍をもたらした東日本大震災のことを忘れてはならないとの思いに立ち、日々の法華経読誦をもって、心から犠牲者への慰霊と被災地の復興祈願をサンガの皆さんと**「こころひとつに」**させて頂きたいと、強く願うものであります。

ご法話の最後の「さまざまな姿や形を見せて大切なことを教えてくださる観音さま。私たちはその観音さまに慈悲と智慧を学ばせていただくことが、**『ともに歩む』**ということだと思います」というお話を通して、“観音さまが常に様々なお姿をもって示現されるのだから、安心して精進せよ！”という、仏さまの限りなきお慈悲を私は感じます。同時に、「学び、実践する」ことが、今こそ重要であると受けとめました。

先月、今年９０歳になる私の母親が、介護施設に入居いたしました。入居日のため荷解きなどで時間を要し、私が夜７時ごろに退館するためエレベーターに乗ろうとしたところ、車椅子に乗られたお爺さんが、中から出てこられました。そして、「こんな遅い時間に、スタッフでもない貴方たちが居るのは何故か？受付に用件を書いてきたか！？」と話されました。少し不満げな様子でした。私は、一瞬おかしなことを言われるな、施設の退館時刻にもなっていないのに…と思いました。しかし、横に居た家内から、「ここで生活されている方にとって、あまり見かけないことなのでしょう。だからお尋ねされたのでしょう」と言われ、ようやく気が付きました。目の前のお爺さんは、日ごろ見かけない様子であると、敏感にキャッチされたのでしょう。そして、ものの見方が一面的であった私を、反対側から見ると、こうですよと教えてくれました。ある意味では、施設の安全管理のためにもお役を果たされているわけで、思わず、「有り難うございました」とお礼を言い辞去しました。今になって思えば、あのお爺さんも観音さまだったと手を合わせている次第です。**いつでも、どこでも観音さまがいらっしゃる**と信じ、仏道修行に努めて参ります。

福招く「やってみよう　いつも　ニコニコ　私から」　～節分会にて～

２月３日、節分会式典が行なわれました。80 名ほどの年男・福娘・厄年の会員が赤い羽織を着て参加しました。

式典では年男・福娘代表１名ずつ発表がありました。60 歳の男性は妻への感謝の言葉を述べ、12 歳の女性は中学に入ったら勉強も部活動も頑張りたいと発表しました。

佐藤教会長さんはお言葉の中で「貪(とん・むさぼり)・瞋(じん・いかり)・痴(ち・ぐち)」の三大煩悩を滅するのではなく、コントロールするのが大事だと述べ、怒らないためには「笑う」ことで、「やってみよう　ニコニコ　あいさつ　私から」を実践することだと述べました。

その後、節分のメイン行事である豆まきです。おかめとひょっとこの踊り、鬼の登場、年男・福娘による豆まきが行われました。式典の最後に奉納品の抽選会が行われ、会場は参拝者の熱気で大いに盛り上がりました。

今年も始動　「明るい社会づくり運動」

早朝清掃奉仕とモーニング懇親会（京洛明社）

２月17日の朝７時30分から、京洛明社は恒例の紫明通りの清掃奉仕を実施しました。この通りは当日実施された全国車いす駅伝のコースにあたるため、いつもよりきれいだと言いながら、より細かなところまで気を配って清掃していました。清掃奉仕で心を満たした参加者たちは、喫茶店で楽しく語り合いながら親睦を深めました。

京都明社　新年会を開催

２月17日、京都府明るい社会づくり運動連絡協議会は新年会を開催しました。地区明社、構成団体の代表者ら20人が集いました。野上芳彦・元明社全国協議会会長代行から提唱者である庭野日敬開祖との思い出をスピーチしてもらい、参加者一同が明社の理念を再確認し、今年も明るい社会づくりに努める決意を新たにしました。

宿直者が集い、互いに研さん・仲間意識を高める

２月10日、教会の宿直のお役を務める奉仕者約100人が集い、京都教会において「宿直学習会並びに懇親会」が行なわれました。教会の施設管理は原則として会員の奉仕によって行われ、夜間の宿直者は重要な役割を担っています。

学習会では、代表者が宿直のお役による功徳を発表し、佐藤教会長から「宿直当番の意義と心構えについて」の研修がありました。「開祖さまのような人間になるためのお役であり、菩薩行の実践を繰り返し『させて頂く』という姿勢を確立することが大切だ」と述べました。

その後行われた懇親会では支部を越えての交流ができ、宿直者の仲間意識を高めました。

庭野日敬の著書に学ぶ　「人生、心がけ」より①

****

私たちの住む社会環境がゆがんでいたら、それを変えなければなりません。しかし、それを、ただ外に向かって訴えるだけでは、社会は変わりません。

自分のめがねのレンズが曇ってよく見えないときには、ハンカチを出して曇りをふきます。しかし、そのハンカチが汚れていたのでは、かえって曇りが広がってしまいます。まず自分のハンカチを洗ってきれいにする。それからレンズをふく。社会を変えていくのも同じです。ただ社会を批判するだけではなく、まず自分を磨き、自分の見方、考え方を正す努力をしてこそ、おのずから道が拓けてきます。

****

ものごとを正しく見るように心がけることが、すべての出発点になります。自分は間違っていないと思いながら、固定観念や思い込みで見ていることが非常に多いことを気づかされます。政治など社会を良くするためにも、みんなが自分を磨くことに取り組むことが大切だと教えられます。

大乗仏教は、この現実の社会で貪ったり、怒ったり、ぐちを言ったりしているすべての人を救いとる教えです。だれもが“なるほど”と納得できる言葉で、仏教の真髄「三法印（さんぽういん）」を中心に「八正道（はっしょうどう）」「六波羅蜜（ろくはらみつ）」の実践の道を示しています。

庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

《教えの継承》

立正佼成会の会長位を庭野日鑛二代会長に継承し、加えて二代会長は平成６年 11 月 17 日、長女の光代さんに「光祥」の法名を与えて会長位継承者に指名しました。当初、幹部の人たちの間で「早く指名した方がいい」という推挙の声が起こった時には、日鑛会長自身は、かつての自分の体験からも、なかなか承諾しきれませんでした。

そんな時期に、伝統ある仏教教団の歴史を詳しく見てこられた外部の学者の方から、「助走は長い方がいい。その方が組織は安定するものだ」という助言を頂きました。会長自身の自覚を深めるためにも、皆さんの声に従った方がいいと考え、庭野開祖は第三代会長の指名を承認しました。

庭野開祖自身も祖父の姿から多くのことを学んで育ちましたが、光祥次代会長もまた、生まれた時から開祖のかたわらで過ごし、庭野開祖の日々の生活のなかで自分なりに咀嚼し、身につけてきたこともあり、会長位に就くまでに、できるだけ視野を広げると共に、人々に仕える大切さを学んでもらいたいと、庭野開祖は願っていました。

《出会ったすべての人が師》

国内での布教、海外での国際会議を通して、庭野開祖は数多くの人々に出会いました。意見を異にする人に教えられることも多かったのです。すでに書いたように読売新聞に叩かれ、ソ連に行けば一部のマスコミから「共産主義に迎合する庭野」と悪口を書かれ、時にはダイナマイトで吹き飛ばすぞと脅迫されたこともありました。だが、そうしたことのすべてが、今にして思えば庭野開祖の歩みを間違いのないものにして下さるための神仏のお手配だったのだ、と思わずにいられないのです。

昭和 54 年、国際宗教社会学会の会長を務めるロンドン大学のマーチン教授一行が来会して、懇談したことがありました。その時「庭野会長は世界中をまわって色々な人に会われたと思うが、最も印象の深かった人の名をあげてほしい」と尋ねられ、庭野開祖は正直に言いました。「私にとって、出会ったすべての人が先生でした」そうした数かぎりない出会いのなかで、心に残った言葉がたくさんありますと。

こんなこともありました。英国国教会のカンタベリー大主教のラムゼー博士が、突然、立正佼成会に英国大使の案内で訪ねてこられたのです。　（次回に続く）

第 30 回庭野平和賞はスタルセット氏に

２月 27 日、公益財団法人・庭野平和財団は京都普門館において記者会見を開き、第 30 回庭野平和賞をグナール・スタルセット氏に贈呈することを発表しました。記念講演シンポジウムは、５月 18 日に京都市国際交流会館にて開催される予定です。

スタルセット氏は 1935 年、ノルウェー王国に生まれ、ルーテル世界連盟事務総長、ノルウェー国教会オスロ監督をつとめ、世界宗教者平和会議国際委員会執行委員、欧州諸宗教指導者評議会議長、ノーベル委員会メンバーとして活躍されています。（次回、詳述します）

全国教育者研究大会開催される

２月 23 日から 24 日の２日間、大阪普門館において平成 25 年次全国教育者研究大会が開催され、京都から８人の教育関係者が参加しました。

一日目、北村泰章教育者教育研究所所長からの年次方針発表、公立大附属中学校教頭の「実践発表」、大谷津晴央専任所員の「研修」に続き、「体罰、いじめ、不登校～子どもから学ぶ教育者へ～」をテーマにパネルディスカッション。二日目には、明治大学文学部教授の諸富祥彦氏の記念講演が行なわれました。

参加者から「今回の大会を通して、教育に求められるねらい、教育者としての役割の重要性を再確認できた」と感想を寄せられました。

渉外部からのお知らせ

●３～４月の主要行事予定

３月	５日	教団創立 75 周年記念式典	９：00～
		同　夜間式典	19：00～
	９日	新宗連京都・青年部「福幸の祈り」	10：00～
	11 日	東日本大震災犠牲者慰霊復興祈願法要	９：00～
４月	７日	花まつり	10：00～
	８日	降誕会	９：00～

●メッセージ

先日、会員さん宅でその月のご命日に当たる方のご供養がありました。ご供養が始まったと同時に玄関の開く音が聞こえました。遅れて来られた壮年部さんだと思いきや、その方はご供養が終わった後も姿が見えませんでした。多くの方にも聞こえたその音。ご供養の三役の方の義理のお兄さんが命日に当たることから、きっと喜んで聞きに来られたのではないかということでした。想いの大切さを感じた瞬間でした。